

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成27年度第3回)

日時：平成27年11月27日（金）午前9時30分～午前11時
場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

○事務局（岡村事務局次長）

諸家委員さんが、ちょっと遅れられるということなんですけれども、その他の皆さんはお揃いですので、ただいまから手話パフォーマンス甲子園の実行委員会企画推進会議の平成27年度の第3回目の会議を開催させていただきます。本日はお忙しいところお集まり頂きましてありがとうございます。私は本日の進行を務めさせていただきます県庁の障がい福祉課の岡村と申します。よろしくお願ひ致します。ではまず、開催にあたりまして、本会議の委員長であります、鳥取県福祉保健部長の松田が一言ご挨拶申し上げます。(0:47)

2 委員長あいさつ

○松田委員長（福祉保健部長）

皆さんおはようございます。本日は本当に朝早い時間での会議とすることでそちらの点でもご迷惑をおかけしたかと思ひますけれども、本日はお集まり頂きまして本当にありがとうございます。また、大阪の方から遠路、廣田委員さんにもお越し頂きまして、本当に朝早くから出発して頂いたかというふうに思ひます。本当にありがとうございます。皆さまのおかげで9月22日には第二回の手話パフォーマンス甲子園を開催することが出来ました。本当に改めましてお礼を申し上げたいと思ひます。ありがとうございます。第一回目に続いて第二回目ということで、当初も申し上げたかと思ひますけれども、第一回よりも、少しでも多くの方に御覧頂けるようにということで、事務局と致しましては気合を入れて開催をさせて頂きました。米子でということで、天気も少し風が強かったですけれども多くの皆さんにおいて頂くことが出来ました。なかなか会場の都合でと言ひますか、来ていただく方々の人数も多かったということもありますけれども、全員の方に会場の場で中に入って頂くことが出来なかったという点ではまた、来年に向けての反省点かなというふうには思ひました。けれども本当に無事に大会を終えることが出来ましたことをうれしかったというふうに思ひますし、感謝を申し上げたいというふうに思ひます。今日はそのとき、事務局と致しましても様々な反省点を感じております。おそれから委員の方々もこの場でいろいろな点についてお感じ頂き、また次に生かしてというふうに思ひ頂いた点も多かったと思ひますので、今日はその忌憚のないご意見を今日の場でお聞かせ頂き、事前にお声を掛けさせて頂きまして、ご意見を頂いておりますけれども、その点やそれから今後のスケジュールにつきまして、共通の認識をさせて頂いて、次の会に繋げたいというふうに思っております。上部の段に書いております実行委員会の方もまた、年度末までには開かせて頂きたいというふうには思っておりますけれども、今日の段階ではひとまず、会が終わり来年度に向けての反省点というものを共通認識し、次の大会に向かう会にしたいと思ひます、本日はどうもよろしくお願ひいたします。(3:40)

○事務局（岡村事務局次長）

本来、お集まりの皆さま全員をご紹介させて頂くべきところではありますけれども、時間の都合もございますので、大変恐縮ですけれどもお手元の出席者名簿をもってご紹介に代えさせて頂きたいと思ひますのでご了承くださいませお願ひいたします。また、今日ですね、廣田委員様には遠路はるばるお越し下さいましてありがとうございました。それから名簿には載っていないですけれども大会の受託をしてくだ

さいましたM&Mドットコーの本山社長様にも今日はお越し頂いております。よろしくお願ひいたします。では議事に入ります前に発言される際のお願ひをさせて頂きたいと思ひます。今後ご発言頂くときには、最初に手を挙げて頂きまして、その後お名前を言って頂いて、ゆっくりとお話しくださいますようによろしくお願ひします。では、これより議事に入らせて頂きます。ここから先は実行委員会設置運営要綱に基づきまして、松田委員長に議事をお願ひしたいと思ひます。では松田委員長、議事の進行をお願ひいたします。(5:15)

3 報告事項

(1) 第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について(資料1)

○事務局(岡村事務局次長)

はい、それでは早速議事に入らせて頂ききたいというふうに思ひます。それではまず、報告事項につきまして説明をお願ひしたいと思ひます。お手元の資料1を御覧下さい。第二回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催結果につきまして、事務局の方から説明をお願ひします。

○事務局(鈴木事務局長)

皆さんおはようございます。障がい福祉課の鈴木でございます。この度の手話パフォーマンス甲子園では実行委員会事務局の事務局長も務めさせて頂きました。皆さまにご協力頂き開催出来たことをこの場をお借りしまして感謝申し上げます。ありがとうございます。それでは座って資料を説明したいと思います。資料1を御覧下さい。資料の1で裏表の結果概要を載せております。今年は米子市公会堂で行いまして来場者の方、実に1,550名の方でございました。米子市公会堂の収容人数は1,000人でございますので、1,000人プラス550人ということで、おやっと思われられるかも知れませんが、ひとつは満席になったために外でお待ち頂いて、途中で帰られる方がおられましたので、帰られた後の席には座って頂くように務めました。あと、急きょ会場の前にですね、モニターを置かせて頂いたり、近くの「ふれあいの里」という施設にですね、モニターを置いてサテライト会場という運営をさせて頂きました。その人数も含まれております。昨年の会場が500人で行って、なかなか一般の方が入れなかったということで、今年はその会場規模を倍にしました。倍にしましたが、それでも想像をはるかに超える方々がいらっしやったということで事務局としても非常に驚いたところでございます。またその対策等については後ほどご説明したいと思います。審査結果でございますが、優勝は奈良県立ろう学校、そのお子さんが、そのなんと云いますか生徒さんが、音を失い、音を失った中で手話と出会い、そして仲間と共に希望、未来を目指していくという表現をですね、体いっぱい表現をされまして、非常に会場の感動を誘いました。非常にレベルの高い演技だったというふうに、私も後で見まして感じました。あと準優勝については三重県の方の高校のチームが取りましたし、3位は東京のクラーク記念国際高等学校が第3位になりました。審査員特別賞については、昨年優勝した石川県の田鶴浜高校でございました。なお、鳥取県の鳥取聾学校さんにおかれましては鳥取県内の最優秀校に与えられる「日本財団賞」になりました。参考までに奈良県立ろう学校と鳥取聾学校、日本財団賞を受賞されましたので12月に東京秋葉原で情報アクセシビリティ・フォーラムというイベントが開催されますが、そちらの方への招待出場も決まっております。非常におめでたい事だなあと思っております。めくって頂きまして裏面でございます。出場したのは20チームでございましたが、今回は応募が47チームございました。昨年の応募が41チームでしたので、昨年より非常に多くなって来たということでございまして、来年も更に増えるようにPRを頑張っていきたいと考えております。3番に掲載させて頂いておりますが、今年も皇族のご臨席を賜りました。佳子内親王殿下にご臨席を賜り、初めて、全て手話でご挨拶をされました。近くで見ていた知事曰くですね、挨拶の直前にポケットから原稿を取り出されて、テーブルに置かれたんですけども、そのテーブルに目を一度も通すことなく、全て手話と言葉で音声言語で両方でやり切られたということでございまして、こちらも非常に、会場の方々が驚いておられました。この様子につきまして、手話パフォーマンスの開催と合わせて、この佳子内親王殿下のお言葉というのが、非常に多くのメディアで全国メディアで取り上げられました。ニュー

ースだけではなくて、情報番組、朝の情報番組、昼の情報番組とかなり放送されました。非常に PR 効果高く、その後のネット上でのコメントを見ますと、非常に手話に関心を覚えた、手話パフォーマンス甲子園ってどんなのだろう、自分も手話をやってみようかなあみたいな話が出てまいりました。また佳子内親王殿下が、手話は言葉であり大切なコミュニケーション手段としてのひとつだと言うことを、はっきりとおっしゃられたということは、手話を広めていく鳥取県と致しましては、非常に心強いお言葉を頂戴したと思っております。その他についてでございますけども、ご案内の通り前日には米子全日空ホテルにおいて交流会を開催いたしました。大会の様子についてはユーチューブで生中継を実施致しました。あと JR さんに非常にご協力頂きまして、JR さんには事前に手話の勉強等も行って頂いたり、また案内書を米子駅に設けまして、そこでの遠隔手話サービスや音声文字変換サービス、そういった事にも取り組んで頂いて、おもてなしを図って頂いたということも、非常に印象的ございました。とりあえず私の方からは簡単ではございますが、あとは御覧頂いて説明は終わりたいと思います。以上です。(13:38)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

ただいまのご報告につきまして何かご質問等ございましたらお願い致します。宜しいでしょうか。そうしますとまだ、後ほどご気づかれたところをお話し願いたいというふうに思います。

4 協議事項

(1) 第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について（資料1）

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

それでは続きまして、協議事項に入らせて頂きたいと思います。お手元の資料2を御覧下さい。議案第一号、第二回全国高校生手話パフォーマンス甲子園へのご意見、ご感想についてということで事務局の方から説明をお願いします。

○事務局（鈴木事務局長）

資料の2番を御覧下さい。大会を終わりました、企画推進会議委員の皆様方からご意見、ご感想等を頂いております。良かった点、改善すべき点、それらについて主なものをご報告したいと思っております。また、これ以外にもその後気づかれた点等もあるかもしれません。それはまたご発言等でお願ひ出来ればと思います。良かった点のところを御覧頂きたいと思いますが、来場者でございます。非常に多くの来場者があって盛り上がったということで高い評価を頂いております。まるの3番に、誤字がございまして感動的なパフォーマンスを多くの混乱者がと書いておりますが、観覧者の誤りでございますので、ここで訂正を致します。申し訳ございません。観覧者でございます。混乱したか知れませんが観覧者でございます。あと演技レベルが高かったということ、昨年に比べて更にレベルが上がったということ、ゲストパフォーマンスが良かったということ、あと円滑に運営が行われたというご意見も一部頂いております。会場内のスタッフの誘導がキチンと出来ていたというお話も頂きました。あと時間どうりに大会が進行したという点でも評価を頂いたところでございます。交流会では、本当にいろいろな方々とお話が出来て良かったというふうなご意見も頂いております。めくって頂きました2ページからは改善すべき点を載せております。主だったところ、たくさんございますので主だったところだけご説明致します。先ほども話に出ておりましたが、一番上、来場者の丸の1番ですが、入場できない人が多く出てしまったということで、丸の2番に整理券方式にしてはどうだろうか、というふうなご意見もございます。中段の会場のところでございますが、会場の収容人数が少ない、より広い会場での開催を希望するというご意見がございました。演技表彰のところでございますが、演技時間をですね今回、8分間の演技ということにしておりまして、7分30秒で今回の企画推進会議のご提案もありまして7分30秒で、残り30秒ですよという表示をさせて頂きましたが、こういうふうにご覧の方から紙で上げて表示をしましたが、ちょっとやはり見難いというご意見もあったようです。また改善して行きたいと思っております。あと、映像の手話が見難かった。大きいスクリーンが良いというお話もありました。一番下ですけれども手話通訳のところ、高校生のイン

タビューの際、司会の今井絵理子さんが、手話通訳をかって出られたんですけども、それが早瀬さんの方に体を向いててですね、会場の方に向いていなかったということがあったようでございます。あと表彰式の時にですね、ステージ上の聞こえない生徒さんへの手話通訳を配置すべきだったということで、これはまあ、実際には舞台下に配置はしておったんですけども、そちらの誘導といいましょうか、あちらに手話通訳の方がいらっしゃいますよというご案内が不十分だったかなと思っております。次3ページ目でございます。いろいろとございますけども、リハーサルをですね、もうちょっとキッチリした方が良いんじゃないかといふような話がありました。あと来賓、真ん中あたりですが、来賓のところで、もうちょっと来賓の占める割合が大きくて、一般の来場者の席を、もうちょっと確保すべきじゃなかったかなというお話があります。その次、交流会のところでは、アトラクションがちょっと注目されてなかったんじゃないかという話ございました。あとこの交流会の丸の3番のところで、私もちょっとあとでお聞きしたのですが、どうもリハーサル会場の公会堂から全日空ホテルまで、生徒さんが荷物を持ってですね、ずっと移動されたということで、結構な大行列が出来ていたようでございますが、ここは改善して行きたいというふうに考えております。裏面を御覧頂けますでしょうか。一番最後の4ページでございます。第一回大会よりも良くなったというご意見も頂きました。まあ良くなった点もあれば、改善されていないということもあります。そういった点について反省していきたいなあというふうに考えてはおりますけども、一番最後でございますが、実行委員会の皆さま方にもですね、マニュアルを配布した方が良く、あと実行委員会の方々、企画推進会議の方々からも、それぞれ運営に協力できる分があればやりますよというふうなあり難いお言葉を頂いておりますので、またそういった点についても考えて行きたいと思っております。非常に簡単な説明ではございますが良かった点と改善すべき点についてご報告致しました。ご意見を頂戴したいと思っております。(21:19)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

ありがとうございます。この件につきまして、ご意見等頂ければと思います。よろしく願い致します。すでにご意見頂戴したところですけどもこの場で頂戴頂ければ在り難いと思います。いかがでしょうか。すでに書いてある内容でも構いませんし、補足をして頂くようなことでも宜しいかと思っております。お願いします。田中委員さん。

○田中委員（鳥取県手話サークル連絡協議会）

大変大きな大会ご苦労様でした。その中で、随分今回反省が多かったなあというのがありますが、直前になって、手話ボランティアの募集を掛けたんですけども、やっぱり直前になってからだとなかなか予定がつかなくなかったりということも多かったです。チラシは随分前から配布はされてあったので、チラシを配布するのと同時期ぐらいにボランティアの方も声掛けが出来れば、予定がもっと立てられたのではないかなあと思います。それから、急な募集だったので、事前打ち合わせも直前に行われたんですけども、平日の昼間ということもありまして、予定を立てられない方がほとんどというか、サークル関係の方では100%予定が立たずということで、当日にぶっつけ本番での参加という形になってしまいました。当日も待ち合わせ場所がはっきりとわからなかったりとか、それから担当者のところに行ってもほとんど説明の無いままに、あまりよく分かっていない状態で動かなければいけないかかったりとか言うこともありましたので、やっぱりもうちょっと早め早めに段取りをして、事前打ち合わせも2回、3回に分けてして頂いたりとか、夜の部も作って頂いたりとかいうことも必要だったのではないかなと思いました。(23:55)

もう一つすみません。パブリックビューイングの設置なんですけども、事前の企画推進会議の時にも必要なのではないかという意見が出てたんですけども、なかなか準備の方が大変だったとは思いますが、やはりその点は事前に分かっていたことですので、準備して頂きたかったなあというのと、急遽の準備であったがために、「ふれあいの里」の方に行かれた方は、椅子も無かったですし、画面の動きは見えても音声は出なかったということで、その辺がもうちょっと、事前の会議でも著作権の問題、いろいろ確認を取っていかねばいけないという話もありましたけども、その辺も確実に取れていたら良かったなあというふうには思いました。(24:57)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

松田です。ありがとうございました。

○小椋委員（鳥取県教育委員会教育次長）

本当にありがとうございました。一番良かったのはですね、第二回目で、第一回目からたった一年の期間に高校生の演技の内容が、あれだけ質が高まっているということに本当に素直に驚きました。たぶん事務局の皆さんはじめ全国にPRして頂いたり、関係の皆さんも関係者に宣伝して頂いたりということで、学校や高校生の意識が高まったんだなあとというふうに思っております。あれだけのレベルが一気に上がるというのは本当にすごいなということを感じました。本当にありがとうございました。

それから一つだけ私が気になったのはですね。米子駅からのシャトルバスのことなんですけども、案内を頂いたのに乗ってみようと思って、バス停に行きました。8時から30分おきに運行と書いてあったので、8時半のバスに乗ろうと思ったら8時半のバスはありませんと言われて、えっという、これどういうことだったか分からないんですけど、結果的にはそこにおられる担当の人に、おかしいでしょと言って無理やり動かして貰ったんですけど、ちょっと感覚がずれていたなということを感じました。以上です。(26:40)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はい、ありがとうございました。はい、どうぞお願いします。

○山内委員（鳥取県私立中学高等学校長会会長）

おはようございます。本当にありがとうございました。素晴らしい大会だったと思っております。初めて見させて頂きました。その中で一つだけですね。私が見ても、私のような感覚の人間でも感動するんですが、若い高校生たちがもっと見る事ができれば、よりいい機会になったのではないかと思います。出来ればですね、来年度以降開催されます時に、たくさんの方がですね、会場の施設の収容人員のところを書いておられますが、私も同じように感じましたが、そんな中で是非、各高等学校にですね、何名かずつでも枠を作って頂いて観覧が出来れば、それをですね、学校に持ち帰っていい会だった、大会だったということの子供たちが報告出来ればいいなと思いました。そんな面では是非来年度以降、会場の方も収容人数のことを是非ご検討下さい。よろしくお願ひしたいと思ひます。(27:55)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はいお願いします。

○廣田委員（全日本ろうあ連盟青年部長）

座ったままで宜しいでしょうか。二回目の大会で非常に感動致しました。とても良かったという声も聴いております。ちょっと今載ってはいないですけども、ご意見、感想としてちょっと提出漏れが三つございます。

一つは、会場の広さが去年と比べて規模が大きくなったということは良いことであります。全体的に1,550 人来場者があったということなんですけども、とても良かったと思ひます。ただ、広くなれば広くなるほど手話通訳というか情報保障の部分が弱くなるというところがござひます。ただ、去年は非常に狭かったということがあります。手話通訳については、今回は会場がとっても広がったということで、サテライト会場やマルシェのところも含めてですね、なかなか手話通訳を頼みたくても遠慮してしまったという声もたくさん頂いております。その部分も、会場をただ広くするだけではなくて、情報保障の面もキチンと合わせて運営の面で考えて行って頂きたいなと思ひるのが一つです。

二つ目が、今回、入場は早い者勝ちというか、席は早い者勝ちというか、たまたま一番目、二番目に並んだ方に聞いてみたんですけども、朝の5時半に徹夜で車で来たという話を聞きました。まあ4時間ぐらい並びましたという計算になりますけども、ありがたいと言えばありがたいんですけども、5時半から並ぶというのはすごく想定外ですよ。そういう時間では電車もまだありませんし、そういう部分も含めて、

来年はもうちょっと早めに、早い者勝ちで並ぶという方法であれば、その並び方というか、その分をどうするか前もって情報をなにかしら提供しておくとかという部分も大事ではないかと思います。たまたま一番最初に並んだ方が、一番目の後ろにその方は並んだというふうに言われていたんですけども、ただ案内がその場に無かったということがありました。

二つ目が全体的に来年4月から障害者差別解消法がスタートすることになりますが、障がい者差別解消法は啓発、理解も広めるという役割も入っています。そういう意味でも、イベント会社の方も、またお店の方々も含めてモデルになるようなものを見せる、示すというような場が手話パフォーマンス甲子園である、それを生徒さんが見るということで、関係者の方々もお願いしたいと思います。裏方の方もいろんな企業の方、団体の方が協力されていると思うんですけども、その方達にも理解をして頂くというような大会、モデルになるようなイベントを希望します。そして、成功に向けて完成できるようになれば良いと思います。この3点です。以上です。(32:26)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

ありがとうございました。今4人の方にご意見を頂きましたけれども、それぞれについて事務局の方で少しフォローして頂けたらと思います。

○事務局（鈴木事務局長）

昨年よりも会場を広くしましたら溢れる方も出てしまったということで、まあサテライトも準備はしておったんですけども、設営がちょっと当日になってしまったりして、バタついたり、音声が出ていなかったり椅子がなかったりという点については準備不足があったと思います。来年についてはですね、更に大きな会場を準備したいというふうに考えております。鳥取県内でも一番大きな会場は、2,000人のホールでございます、これがまあ二つしかございません。それに次ぐ大きさのホールが1,500人で、今年は4番目の広さのホールでやったわけですけども、まあ溢れてしまったということで、なかなか会場の取りづらさも、皆さんがごぞって大きなホールを使われたがりますので、会場の取り難さもありますけれども、確保できた会場に見合った募集の方法というのがやはり必要だなと今回痛感致しました。まあひとつは、整理券のような方法もあるかも知れません。あと抽選方法ですとか、あとはまあそのご意見の中にもありました、まあ会場に入りきれない場合は、パブリックビューイングでの観覧になることを予めご了解くださいということも必要かもしれません。そういった当たりですね、より多くの方に見て頂きつつ、ただ溢れたとしてもそういった方々に不自由を掛けない方法を考えていきたいというふうに思っております。

ただ、高校生さんに見て貰うために確保の枠をとることがございました。今回は高校生さんではなかったんですけども、より多くの方に、とりあえず子供たちにですね、聴覚障がいのある子供たちには優先的に見ていただきたいと思ひまして、今回聾学校さんとひまわり分校さんにつきましては、予め人数をお聞きして、その人数分のスペースを確保させて頂きました。まあちょっと高校生さんについてどこまで確保できるのかということも、今後考えたいとは思ひますけども、今後の検討材料ということにさせて頂きたいというふうに思ひます。あとやっぱり会場が、仮に来年、会場が更に広いものにした場合、さらに手話通訳の体制というのが必要だなと思ひます。その手話ボランティアの方へのご案内が直前になってしまったということも事務方としては反省点ではございますけども、まあ会場規模に見合った手話通訳の方がどれぐらいいるのかということですね、まあこれまでの二回の大会を踏まえて考えていきたいと思ひます。正直、マルシェの部分とかへの配置については、私たちも念頭に入れてなかった部分でございます、聴覚障がいの方が多く集まれる大会でもありますので、出来るだけ、あらゆる場所に情報保障を図れるような体制を考えていきたいと思ひます。シャトルバスについては、また確認したいと思ひます。大体以上でございます。(37:03)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

その他は如何でしょうか。はいお願いします。

○森原委員（鳥取県手話通訳士協会）

全体的に見たら多々改善出来てない点がたくさんあるんですけども良い大会だったと思います。皆さまお疲れ様でした。シャトルバスの件なんですけども、私も8時半ののに、乗れるか乗れないか危なかったんですけども、運転手さんがスタッフの方に連絡取って頂いて、殿下の来られる時間帯と重なるからずらすように、この便はなくすように言われたというふうに運転手さんが言われたんですけども、で、次は9時ですと言われて、ちょっと9時では間に合わないのをご無理を言って、連絡とって頂いて、バスを動かして頂いたということでした。

私からの意見として、映像スクリーンについてなんですけども、全国ろうあ者大会のなんかの場合ですと手話通訳が左にばっと映ってて、舞台上の方は左側に映っているというような感じになっていたと思うんですけど、そのような方法にしてみてもいいかなと思うんですけども。通訳だけがばっと左に常に映ってまして、右の方に舞台上の映像が映っているという感じです。それから、これは、前の委員会の時にも意見として言ったような気もするんですけども、今井絵理子さんは早瀬さんに対しての通訳をされているので、全体の会場に向けての通訳はされていないので、今井さんとは別に通訳をつけて頂ければ、そういう問題は発生しなかったのかなと思うんですけども、ここにも書いてますけども今井さんはやはり通訳としてではないので、服装もね、通訳者として見やすい服装はしておられないですし、ですので今井さんが手を動かして手話されていても、手話通訳は別に張り付くという形の方が良かったのではないかなと思います。以上です。(39:27)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はいありがとうございました。事務局の方はいいですか。

○事務局（鈴木事務局長）

映像については、我々もですね、実は全国のいろいろな大会に参加させて頂いておりまして、非常に参考になる投影の仕方が、パワーポイントがあり、手話通訳が映り全体も映り、その上要約筆記も映りというふうな、すごく情報保障がちゃんとした大会と思います。そういったものも参考にしながら、今回の手話パフォーマンス甲子園の場合は、学校の演出映像を投影しないといけないということもありますので、そのあたりの兼ね合いをですね、技術的には可能な話でありますので、それは対応していきたいと思っております。あと今井さんの通訳の件なんですけども、実は前日の夜決まった話でございまして、予め手話通訳は配置をする予定にしておりましたが、前日の打ち合わせ等で急きょ決まりました。その中でたぶん今井さんがご用意されていたお洋服はちょっと白と言いますか銀と言いますか、そういった色でしたので手話の通訳が見難かったと、あと無地が会場に向いていなかったということでご意見も頂いております。そこはまあ事前の打ち合わせ等でキチンとしたいと思っております。まあされる場合であれば、内親王殿下であればちゃんと黒の濃い色を着られて手話をされたということもありますので、予めそういった配慮はするように、事務局の方としても気をつけたいと思っております。(41:28)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はいお願いします。

○国広委員（全国手話通訳問題研究会鳥取支部）

説明ありがとうございました。大変良い大会だったと思っています。

まず手話通訳のことなんですけども、(鈴木)室長がご説明された理由は少し分かるのですが、手話通訳というのは誰のためにするのかということですね。その辺のところはきちっと押さえないと、やはり去年と今年と、同じようなことが発生するのではないかと思います。今井さんは早瀬さんと話をするために手話を使っておられたと思います。観客に対しては、やはり手話通訳がきちっと立つべきだろうと思います。その辺をきちっと分けていかないと、誰それさんが手話するから、通訳立たなくてもいいよねという問題と私は思います。その辺は来年度に向けてきちっとしないと、また同じようなことが起こるのではないかと思います。

それと託児のことです。どうも場所が離れていたようでして、これも手話ボランティアを調整した関係で全通研でもボランティアに携わった人が言うておりましたが、託児がまずあるということが周知されていなかったのではないかと、その場所も「ふれあいの里」という公会堂から歩いて行って子供を預けて、また会場に帰って来る、そうすれば入ろうと思ったら、あら入れなかったということが起こっているのではないかと、そういうふうに思います。いわゆるこちら実行する側が、何があつて何がなくて、このあることについてはこういうことですよと、ない場合には、こういう理由でないですということをしっかりと説明できることが必要ではないかと思ひます。それと手話通訳ボランティアに関連して、先ほど田中委員からもありましたが、依頼が直近でした。説明会に出席した手話ボランティアの方々には白のポロシャツで対応をお願いしたいと言われたそうです。その連絡を受け、欠席の方に白のポロシャツの件を連絡しました。そのため、わざわざ白いポロシャツを買って着て行ったら、突然に手話ボランティアと書いたTシャツを渡され、着替えた。こんなだったら私の白いポロシャツ買わなければ良かったわとかね、そういう声を聞きました。やはりその辺のところの連携といいましょうか、情報を流す意味をきちっと押さえて行かないと、手話ボランティアを一生懸命やろうと思ひているのに最初のところで、えっとこんなことがなんで？といったことが起きてしまうのではないかと思ひます。手話ボランティアは前回の会議で突然出てきた話なので、当然期間が短いというのは分かるんですが、では手話ボランティアをどういう形で当日動いて貰うのか、それに対する補償はどうなっているのかということ。ボランティア保険に加入していたのかどうかですね、その辺のところは曖昧だったのではないかと思ひます。手話ボランティアの方がしっかりと動いて頂くためには、情報がある程度お渡ししないといけないので、この件についてお聞きしました。まあ分かっていることと分かっていない部分、実際に当日運営をする業者の方との、なんかその辺の行き違ひが、ちょこちょこあったのではないかなあと思ひますね。私たち委員もこちらの方の感想というところで書いてありますように、役を振ってもらえれば皆さんいくらでも協力をすると思ひるので、もっともつとこちらに投げかけて下さつてもいいのかなあということを感じました。感想と少し意見も述べました。(47:07)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はいありがとうございました。事務局の方でフォローをお願いします。

○事務局（鈴木事務局長）

手話通訳については、まったくおっしゃる通りでございまして、今井さんがかって出られたとしてもですね、常に状況に応じて、横にいて頂く方と予め配置していた手話通訳の方において頂くべきだったかなあというふうに反省はしております。これはちょっと気を付けたいと思ひます。託児の周知が不十分だったということで、これも事前の周知ですとか、そういったのが不十分だったなと思ひます。あと手話ボランティアの件ですけれども、白いポロシャツの経緯を私がよく把握してないんですが、予め会場には容易されるようには、会場ではお配りするようには用意致しておりましたので、何らかの手違ひで説明会の時にそういったことが伝わったのではないかなあと思ひます。すべての情報について言われることで、情報ですね、情報の共有をということと言われます。事前にお配り出来たものについてはお配りするようにはしてございまして、皆様方への周知と、あと最後おっしゃって頂いたんですけども、一緒になって、一緒になってちょっと計画を考えて行くというのが、事務局の方として先走った感はあるのかなあというふうに思ひます。今後やる時にはですね、いろいろなプランの段階から一緒になってご相談をさせて頂きながら、情報の共有の以前に、共同作業というふうなことでお力添えを頂ければと思ひます。よろしくお祈りします。(49:12)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

ありがとうございました。その他は如何でしょうか。学校関係の皆さま如何でしょうか。いろいろこれからのご意見頂くんですけども、時期だとか、今年は特に関西広域関係の文化祭やら、それから学校の試験の時期やらですね、いろいろなこと問題点ということがあろうかというふうに思ひます。これから来年の日程等についてもまだ相談させて頂くところでございまして、ご意見を頂戴出来たらと思ひてござい

し、それから、ちょっと後ほどまた言うかもしれませんが、事前に実はハンドサインさんの方が社会貢献の一環で各地域でも手話の普及に関するいろいろなイベントをしておられまして、それをまあ是非米子でもというふうなお声かけ頂きまして、実は米子西校さんの方にはい大きなご理解いただいて体育館をお貸頂いて、限られた学校だったかと思えますけれども、事前に見て頂けたというふうなこともありまして、150人くらいお集まりいただきまして、これを多くの方に出来れば、それはそれで良かったかも知れませんが、直前でしたけれども、そういうふうなこともさせて頂いて、これは高等学校さんの方には、非常にご理解いただいて開催をすることが出来ました。あらためて感謝を申し上げたいというふうに思います。先ほど山内委員さんの方からも言って頂きました、当日の席については出来る限りというふうに思いますが、会場と調整をしながらというふうなことも考えております。それでは一旦この議題につきましては、協議事項につきましては以上で宜しいでしょうか。次に進ませさせて頂きたいというふうに思います。

5 その他

(1) 今後の日程について (資料3)

○松田委員長 (鳥取県福祉保健部長)

それではその他の方の報告に移りたいと思います。お手元の資料3を御覧下さい。今後の日程につきまして、事務局の方からご説明をさせていただきます。(51:53)

○事務局 (鈴木事務局長)

資料の3に沿って説明を致します。下の赤い枠で濃い枠で囲ったところの一番上、11月27日が本日、第3回推進会議でございます。年明けまして来年1月に実行委員会の総会を行いまして、今回と同様に開催結果、大会総括を行いまして、来年度の開催日程等についてご相談したいとおはかりしたいと考えております。また、実行委員会を受けまして、2月にはまた皆様方にお集まり頂いて、第3回大会の内容についてご審議頂きたいというふうに考えております。めくって頂きまして、裏面でございますけれども、来年度でございますが、今私どもの方としてはこのように考えております。ご意見等頂ければと思いますが、5月中旬には参加申し込みの受付を開始したいと思っております。今年の受付が5月10日から7月10日までということでしたが、同様に受付を開始したいと、5月に開始したいと考えております。7月上旬に参加申し込みの期限とさせて頂きまして、これも今年と変わってはおりません。ただ、今年、どうも夏休み前の試験の時期に被ったということで、申し込み事体は手間ではないんですけども、7月10日迄に動画も取って送らなければいけないというふうな、ご負担を各学校さんにはおかけしてしまいましたので動画の募集については、動画の提出については7月の終わりまでお待ちしようかなというふうに考えております。これ別けましたのは、いろいろと参加申し込みを受けてからの作業と、動画を受けてからの作業、これが今回は両方並行してダブってしまいまして、かなりバタバタだったものですから、別けてですね、業務の効率化を図りたいという主旨でございます。今年、予選審査会は7月29日に行いましたが、動画の提出期限を遅らせる関係で、8月上旬に予選審査会を開催出来ればと考えております。本大会でございますけれども、これにつきましては、今年と同様に9月、10月ごろに行いたいというふうに考えております。できれば10月ぐらいに行えればなあとということを考えておりまして、今関係機関と調整を進めているところでございます。下の方にカレンダーを入れておりますので、ご参考にして頂ければと思います。資料3については以上でございます。(55:17)

○松田委員長 (鳥取県福祉保健部長)

ありがとうございました。資料3につきましてご意見を頂きたいと思います。宜しくお願いします。はいお願いします。

○国広委員（全国手話通訳問題研究会鳥取支部）

ご説明ありがとうございました。スケジュールの中で、今のお話ですと本選を10月頃にというご予定でということなのですが、学校側にアンケートを取られた際に、引率者・生徒から厳しいご意見もありました。10月という予定で進むようであれば、たぶん連休、第1回、第2回の日程を見れば連休かなと思うのですが、その辺はまだ公表できない段階でしょうか。生徒が公欠を取ることができるようであれば、連休にこだわる必要もないのかなと思います。連休だとどうしても観光客が多くなって宿が取り難いという状況が出てまいりますし、その辺のところの引率が生徒の方のご意見も、とても大切にしなければいけないだろうと思います。特に今回、親戚とか子供とか孫とか、そういうので見に行っただけ入れなくてとても残念だったとか、様々な不満も反省のアンケートの中にあるようですので、やはりその点はクリア出来るものはクリアしていくという姿勢が大切ではないかと思います。早く日程については決めた方がいろんなことが動きやすいのかなと思います。（58:13）

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はいありがとうございました。

○事務局（鈴木事務局長）

はい出来るだけ早めに決めたいとは思いますが、実際特に三連休に拘って日程調整はしておりません。結果として三連休になるかも知れませんが、三連休にならないかも知れません。ご意見の中で、公休という話を学校側からも頂戴しておりますので、特に三連休に拘らずに調整はしたいと思います。早めに決めたいと思います。日程時期につきましては、学校の方でもご意見もまちまちでございまして、出来るだけ多くの学校に出て頂きやすい時期にはしたいと思っております。ホテル等についても早めに確保していきたいというふうに思っております。参加チームさんの分については、旅行会社を通じてある程度、キャパシティを確保して頂くようにしております。たぶん今回は一般の方々がなかなか宿泊が大変だったんじゃないかなあと推察しております。（59:34）

○国広委員（全国手話通訳問題研究会鳥取支部）

ご説明ありがとうございました。連休に拘らないということでしたので、大変選択肢が広がるんですが、ひとつ頭に置いておいて頂きたいのは、第11回の全国手話検定試験が10月の土日で日程が決まっておりますので、そこを被らないようにお願いしたいと思います。高校生の中には検定試験を受ける人たちもいますし、面接委員もかなりの人数が動きますので、その辺のところはよろしくお願ひしたいと思います。（1:00:25）

○事務局（鈴木事務局長）

はい参考にさせて頂きたいと思っております。9月18日が、いろいろと行事がやはり多い時期でございまして、被らないようにしたいなあと、特にその手話関係、あと全ろう盟さんの関係の行事とは出来るだけ被らないようにしたいなあと思っております。

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

ありがとうございました。その他は如何でしょうか。日程の関係では、9月中は特に今の段階で分かっている計画が、あるというようなものがありましたらご披露願えたらありがたいですけども如何でしょうか。宜しいでしょうか。

○霜村委員代理（鳥取聾学校）

ありがとうございます。去年、今年と結局、開催時期が変わってきますよね。それで、夏の甲子園だったら何日というふうに決められて、それを元に学校祭をいつにするとか、今からずっと決めていきよる段階です。それにうちは鳥の劇場祭というのが9月にあったりかして、今話もあつたと思っておりますが、そこを早く決めて頂かないと、結局その調整が出来ないということがありまして、たぶん全国の他のところも、

例えば来年9月にあるんじゃないかなあというイメージで、例えば帰られているところもあると思うんですね。だからそういうところを早いこと、もし10月にされるようでしたら、それを早いこと例えば、今回参加した学校なんかにも伝えていかないと、もう来年に向けては進めていますので、来年はこの時期というところを、そこを早急に決めて頂いて、逆に場所も大事だと思うんでしょうね。去年は鳥取で、米子で次はどこかというところもあるので、そうなるもまた、いろんな意味で、言い方よくないんですけど、今度例えば倉吉となったら、今度は泊まる場所も大変だと思いますし、空港の行き来も大変だと思うんですね。そこらのところもちょっと、どうなっているか分からないもので、早いこと決めて頂きたいというのがお願いです。以上です。(1:03:27)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はいありがとうございました。本当にそうだろうと思いますね。特に学校さんの方ではいろんな事業もありますし、手話のサークルの方々や通訳の方々も同様かと思しますので、出来るだけ早い時期に決定させて頂けて、それをご連絡したいというふうに思っていますので、途中の段階でもそれぞれの情報をお出し出来るような形で対応させて頂きたいというふうに思っておりますのでよろしくお願い致します。その他は如何でしょうか。それでは日程については、ひとまず以上ということで、次の議題に移ります。

(2) 予算の執行状況について（資料4）

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

それでは今度は資料4の関係になりますけども、予算の執行につきまして事務局の方から説明させていただきます。

○事務局（鈴木事務局長）

資料4の予算執行状況の説明をさせていただきます。収入の部から説明させていただきます。本大会からは日本財団さんの多大なるご協力を頂き、開催が出来ております。実に2千700万の助成金を頂いて運営しております。決算見込みも予算と同額に頂戴出来る見込みでございます。あと負担金でございますけども、これはお成り等の関係もございまして、その分を鳥取県の方で上乗せして運営を致しました。あと今年初めて取り組みましたのは、協賛金をお願いして回りました。実に100万円に及ぶ協賛金を頂戴頂きました。この理由と致しましては、日本財団さんの助成もですね、ずっと続くものではありません。とはいえ鳥取県単体で3千万を超える予算を確保するというのも、なかなか大変でございます。そういった中で少しでも志のある企業様に、寄付金の方を、協賛金の方を頂いてですね、運営の足しになればということで、将来的には日本財団さんの助成金が、いつの日か無くなったとしても協賛金等でやっていけるようにということで、第二回大会であります今回から協賛金を集め始めたというところでございます。全体からして見ると金額はまだまだ大きくはございませんが、このお手元にお配りしております、実施、実績報告書、これの裏面を御覧頂けますでしょうか。裏面の一番下のところに協賛各社様の名前を入れさせて頂きました。実は協賛各社様、ここに挙げております会社以外にも協賛を頂いておりますが、金額が一定額よりも多かったところについて、こうやって掲載をさせて頂いております、この他にも例えば1万円とか小口の協賛を頂いた企業もございまして、中にはジュースですとかキャンディーですとか、そういう物品関係の方でご協力頂いた企業もございました。この協賛部分については来年度以降更に拡大していくよう我々事務局としても頑張っていきたいと思っております。かっこの2の支出の部についてでございます。上から実行委員会運営費に698,000円、広報宣伝に4,096,000円、大会準備等に1,467,000円、大会運営費三千万余と言うことでございます。大会運営費の中には大会運営について委託した経費、あと参加される高校生チームの方々の旅費、審査員リストの方への出演費、旅費、交流会の開催経費等を含めておまして支出も収入の決算の分と同額を計上しておりますところでございます。予算会計については以上でございます。

(1:08:50)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

今の予算の関係、如何でございましょうか、ご意見頂戴出来たらと思います。はいお願いします。

○国広委員（全国手話通訳問題研究会鳥取支部）

ご説明ありがとうございました。金額に直接関係はないのですが、こちらの備考のところを見ますと、支出のところでは大会運営費委託費というのがございます。つまり、このパフォーマンスの大会を運営をする業者に委託される金額、内容だと思っておりますが、要はこの委託の業者が早く決まれば決まるほど、非常に連携が良く取れて、今回出てきた様々な問題とか課題というのが解決できるのではないかというのがいくつかあるかと思っております。

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

ありがとうございました。事務局の方から説明致します。

○事務局（鈴木事務局長）

今頂いた意見もごもっともなご意見でございます。早めに業者の方を選定をさせて頂いて、早めに内容を詰めていければというふうに考えております。今年は6月にプレゼンテーションを行って頂きまして選定をさせて頂いたということでございます。それから、いろいろと準備ということで出来るだけ早く、もっと早くですね、業者が決まるように進めていきたいというふうに思います。(1:11:32)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

その他は如何でしょうか。はいどうぞ田中委員お願いします。

○田中委員（鳥取県手話サークル連絡協議会）

当日と、それから事前には手話パフォーマンスのポロシャツが関係者に注文を取ってという形であったと思いますし、当日もなにがしらの商品が売られたと思うんですけども、そういうものもこの雑収入とかに入っているのかということの質問と、あと第一回目が終わった時の感想の中に、高校生の中でこのキャラクターですかね、すごくかわいいのでキャラクターの商品があったら買えたのというような意見もあったと思うんですけど、その辺も踏まえて商品化をしてというのは今回難しかったのでしょうか。(1:12:26)

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はいありがとうございます。事務局如何でしょうか。

○事務局（安永事務局員）

まず最初に、ポロシャツなどが公式大会販売の売り上げが歳入に入っているかどうかということですが、ポロシャツについては寄付金の中に一部入っております。一着あたり、結果的に300円になったかと思っておりますけども寄付金の中に入っています。また公式グッズにつきましては、基本的には業者さんに販売して頂いたので、業者さんの売り上げになってはいますが、全体の売り上げの5%を寄付して頂けるということで、5%の寄付が中に入っているという状況でございます。次に大会のキャラクターを利用した公式グッズを考えなかったのかということですが、ちょっとそこまでの考えがなかったもので、販売はできなかったのですが、是非、来年はそういったキャラクターものの公式グッズも採用し、高校生に魅力ある商品を作っていきたいなと思っております。以上です。

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はい如何でしょうか。宜しいでしょうか。その他は如何でしょうか。ご意見の方は、それから諸家委員ですけれども、少しご都合の方がつかれなくなったようで、お時間に間に合われるかもわかりませんが、ちょっと時間の方が不明だということなのでご了解頂きたいというふうに思います。その他宜しいですか。

何かありましたら後ほどということ、それでは次に進ませて頂きたいと思います。

(3) 手話パフォーマンス甲子園応援自動販売機について (資料5)

○松田委員長 (鳥取県福祉保健部長)

資料5ということで最後の項目になりますけども資料5をお願い致します。手話パフォーマンス甲子園の応援自動販売機につきまして事務局の方から説明をお願いします。

○事務局 (鈴木事務局長)

はい鈴木でございます。資料の5番を御覧ください。手話パフォーマンス甲子園応援自動販売機ということで、非常に目立つデザイン自動販売機を、コココーラウエストさんからご提案を頂いておりました。本当であれば第二回大会である9月迄には設置したかったんですけども、なかなか設置場所の調整が出来ませんでした、第二回大会には間に合いませんでした。ずっと調整は進めておりましたので、その中で下の方の設置場所というところに書いてありますけども鳥取市、倉吉市さんの協議を進めておまして、鳥取市文化センターさんですね、鳥取県視聴覚障害者協会の東部の事務所があるところがございますけども、こちらの方に今、一台設置する方向で調整を進めております。あと皆様方の方で、関係されるところです、置いてもいいよ、場所を提供してもいいよというところが、もし在りましたら、教えてやって下さい。これまで、例えばとりぎん文化会館ですとか、倉吉未来中心や米子コンベンションセンター、米子市公会堂、米子市役所というようなところは既に当たっておりまして、なかなかちょっとすでに設置がしてあって増設が難しいというふうなこともありましたので、またそれ以外のところで、もしご協力いただけたら、ご紹介頂きたいと思います。(1:16:58)

○松田委員長 (鳥取県福祉保健部長)

はいありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。何かご意見頂戴頂ければ、はい田中委員をお願いします。

○田中委員 (鳥取県手話サークル連絡協議会)

高校なんかには各校自動販売機なんかも置いてあると思うんですけども、ココ・コーラなんかも結構入っていると思うんですけども、そちらの販売機をこういったものに、増やすのではなくて交換してもらうというようなことは難しいものなんでしょうか。

○事務局 (鈴木事務局長)

なかなかここには商売が実は絡んでおまして、ココ・コーラさんの意向としては、こういった新しいデザインのもの置くことによって、設置場所を拡大したいというお気持ちもあるようでして、今ココ・コーラさんの自動販売機はたくさんあるんですけども、それを代えるというよりは、新しい場所を探しておられると、その一環での、ちょっと営業的な分も実はございます。ということで既設のものに入れ替えというのは望んでおられないようでございます。あと場所の関係で、うまくいかなかった事例の一つとして、自動販売機を置いたとしてもあまり売上げが見込めないというところには、ココ・コーラさんの方としても二の足を踏まれるというふうなところもございますので、そういった商売面のことも背景にはございます。(1:18:47)

○松田委員長 (鳥取県福祉保健部長)

補足ですけども、これもココ・コーラさんからのご提案を頂いた時にですね、身近な例と言えば、例えば県庁の中の自動販売機が置いてあるわけですけども、県庁の中で相談をしましたら、他にいろんな大会もある、手話の大会だけではなくて、例えば障がい者の大会だとか、県が直接に開催をしていないものもありますけども、いろんな大会でのご理解、例えば砂丘の関係の募金等がですね、そういう意味で行くとこれだけを特化することができないということで、色々なハードルをクリアしながら置かせて頂けるとこ

ろに置かせて頂くのかなあというようなことで、やっぱりいろんな機会にこういうふうな形で、何割、いくらかを協賛金として頂けるような取組はいろんなところがしたいので、私たちの気持ちは県庁、ある自動販売機を代えたらどうだという話を、実ははじめ内部では話したり、県庁舎の管理の担当にも相談したりしたんですけども、なかなか一本に集約出来ないところが苦しいところだということがございました。ですので、今後も県庁内もそれじゃいろんなところで、同じ土俵に立ってというふうな話が出るのか、場所によってそういうふうにご理解いただけて、入れ替えて頂けることが出来るかというふうなことで検討を進めてまいりたいと思います。是非委員の皆さまにおかれましても、心当たりがありましたらご案内頂いて、こちらの方からお願いに上がるというふうなシステムで進めさせて頂いたら、大変あり難いと思います。よろしくお願いいたします。

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はいそれでは、これで最後になります。全体を通してご意見がございましたら、なんでも結構ですので、感想でも結構ですし、いや今迄から思っていたことがあるというようなことでしたら、まとめてご発言頂ければ大変あり難いと思います、如何でしょうか。（1:21:30）

○廣田委員（全日本ろうあ連盟青年部長）

今回、二回目だということで、全国的な反応も良かったとご意見を頂いています。高校生の練習の様子のドキュメントがろう者関係の新聞だけではなくて地元の新聞にも載っています。すごく広がっています。やってよかった、正解だったと思っています。もっともっと高校生、今でいえば中学生も含まれますけども、身近と言いますか、あこがれを持てるような環境を何か作りたいというふうに思っております。実際に子供たち、小学生や中学生に来年何かの形で紹介をしていきたい、中学生にとってあこがれの高校生活、目標のひとつに入ってくるような取組を長期的に考えて進めていきたいというふうに思っています。次回の会議で提議していきたいと思います。（1:23:21）

○松田委員長（鳥取県福祉保健部長）

はいありがとうございました。本当に長く議論をして、一番初めに委員としてご参加して頂きました時に、廣田委員さんの子供様が、三歳、四歳になられたようですが、ご自分の子供さんが大きくなって高校生になるまで、この大会があって、是非それに出れるような会になってほしいなというふうなお気持ちを会の時にお聞きしたことを思い出しました。私たちもそういうふうな形で頑張っていきたいというふうに思います。ありがとうございます。その他には如何でしょうか。今回はM&M ドットコーの方に参加をして頂きましたし、ご無理もお願いしながら運営の方して頂いたところでございますので、本当に感謝を申し上げたいというふうに思います。それでは事務局の方は宜しいでしょうか。その他は、宜しいでしょうか、その他の方々に置かれましては、それでは本当にありがとうございました。先ほどの廣田委員さんからもご案内もありましたように差別解消法の方が来年から施行ということで、ほんとうにそのモデルになれるような、すばらしい会にして行かなければいけないということを改めて感じたところでございます。直前になってご案内をしたり、お願いをしたりすることが多くありましたけれども、いろいろな今回の反省を踏まえて来年度についてはまた、バージョンアップした大会になれるように、事務局としても準備を進めてまいりたいというふうに思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。（1:25:40）